

国語教育連盟
冬の学習会

書くこと（文学）部会
梶南小学校 桑村優里

書くこと（文学）

光村の「国語」構造と系統

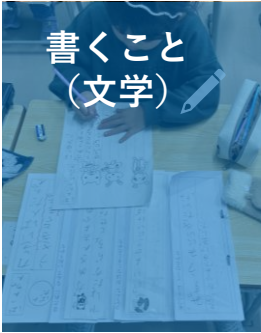
光村図書HPより

書くこと（文学）

光村の「国語」構造と系統

書くこと（文学）

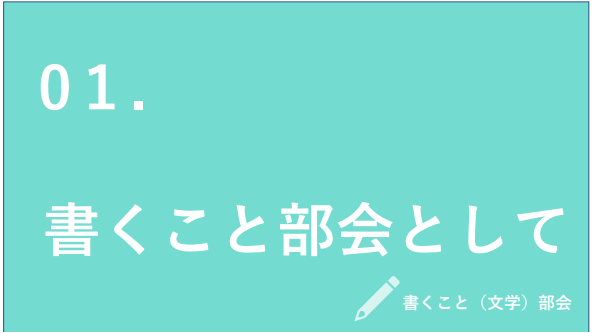




01 書くこと部会として
部会のテーマや月例会から

02 1年生の実践紹介
「どんなおはなしができるかな」

03 部の成果と課題
その他の学年の実践も含めて



感動 と 構成



子どもたちの
感動を大切にしつつ、
話の構成力も身に
付けられるような、
適切な活動設計とは？

01 書くこと部会として

実践課題案①

児童生徒自らが学びの主体となるために「問い」を生み出す単元・授業づくり

- ・「どうしたら自分の感動が伝わる文章になるのか」
⇔「感動を伝えるにはどのように書いていけばよいのか」

(1年生として)

- ・「これでいいのかな」「友達はどうかな」と他者との関わりを通して、自分の文章に向き合い考え続ける

01 書くこと部会として

実践課題案②

創造性の発揮に寄与する「学びのつながり」を意識した単元・授業づくり

- ・書くことの系統性を踏まえた、指導事項と内容の精選
- ・単元の中で自分の感動が積み重なり、それを実感できるような効果的な構成メモや振り返りの活用

02.

1年生の実践紹介



書くこと（文学）部会

02 1年生なりの感動と構成

「どんなおはなしができるかな」



話・聞 2時間
書 4時間

02 1年生なりの感動と構成

指導目標

◎互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。(思A (1) オ)

◎文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけることができる。(思B (1) オ)

○句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。(知(1) ウ)

○文における主語と述語との関係に気づくことができる。(知(1カ))

○話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。(思A (1) エ)

02 1年生なりの感動と構成

感動

(自分が心動かされる・相手の心を動かす)

|| 好き

02 1年生なりの感動と構成

自分なりの好きを

- ・ 集める、ためる
- ・ 伝わるように書く
- ・ 自分の文章の中の好きがある
(振り返れる)

そんな学びに…

02 1年生なりの感動と構成



1 往復半の会話
シンプルな展開

この中に感動を
詰める…

02 1年生なりの感動と構成

実践課題案①
児童生徒自らが学びの主体となるために「問い」を生み出す単元・授業づくり

- ・「これでいいのかな」「友達はどうかな」と他者との関わりを通して、自分の文章に向き合い考え続ける
- ・「自分の好き」を繰り返し選択していくことで好きを伝えたいくなるお話づくりへ

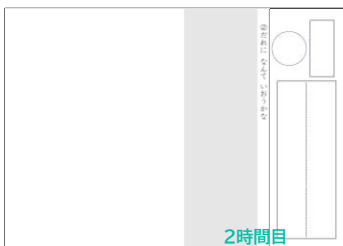
実践課題案②
創造性の発揮に寄与する「学びのつながり」を意識した単元・授業づくり

- ・好きの選択が可視化できるワークシートを用いて効果的な構成メモ
- ・2年生とのつながりを意識した「1往復半」の有効な会話

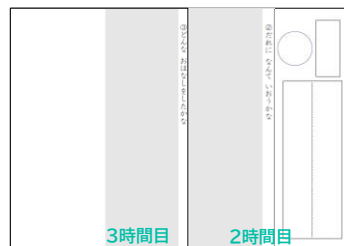
02 単元では



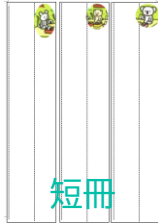
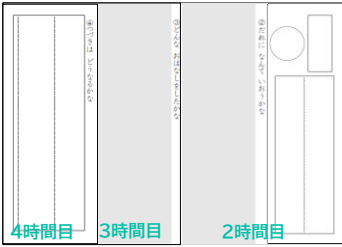
02 単元では



02 単元では



02 単元では



短冊

02 単元では (導入)



お話って

(せりふがある
出来事が起こる)

好きの醸成

(自分が好きな絵本、
なんで好きか)

単元の見通し

02 単元では



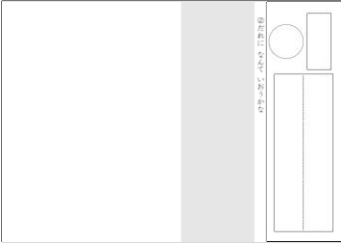
2次 (2/6 時間目)
自分の好きな
主人公を選ぶ

02 単元では

せいかく	しゅじんこうはこんな子	なかよし
・やさしい	・かわいいがすき	・きつね
・つよい	・さかなつりがうまい	・カメとカラス
・げんき	・つがまえるのがとくい	・ほずみとうさぎ
・かしこい	・あしがおそい	・きつねとコアラ
・てんさい	・あしがはやい	・うさぎとくま
・あたまあい	・あよぶのがうまい	・うさぎ
・はずかしがりや	・さかなをさつてきてくれる	・さる
・わがまま	・いっばいごはんをたべる	・カラス
・おちよこちよい	・パレードがすき	・コアラ
・はずかしがりや	・いっつもぬい	・うさぎ
	・よくねる	・きつね、ブーツ
	・さるとパンダがライバル	・きつね、からたん
	・えんそうがうまい	・ばんいち
	・えんそうがだいすき	・ほんなちゃん
	・水でできた、いえがある	・バックンうさぎ
	・おえがきだいすき	・かんな
	・うたがすき	・ほずみ

自分の好きな
主人公を選ぶ

02 単元では



2次 (2/6 時間目)
話す相手の選択
なんと話かけるか

02 単元では



ペープサートの活用

話す相手の選択
なんと話かけるか

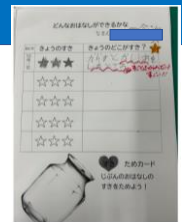
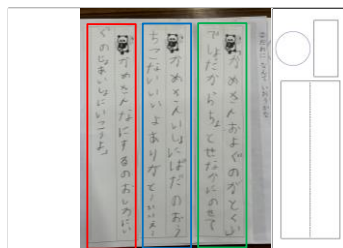
02 単元では



メモを書いてためていく

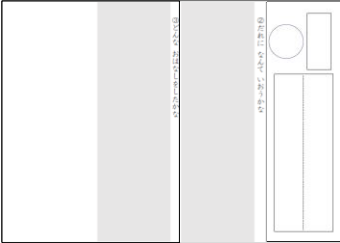


02 単元では



どのカードが一番
好きかの選択

02 本時では



2次 (3/6 時間目)

相手がなんと返してくれるか

02 本時では



- ・毎時間巨大ペープサートでお話を続ける楽しさ、相手の言ったことに対しての続きを考える楽しさ



- ・ふりかえりカード「すきためカード」に自分の作品に対する「好き」を書き、その振り返りから授業をスタート

02 本時では



- ・先生のお話の手助けをすることで本時にやることの確認



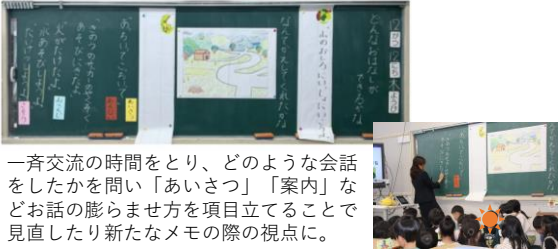
02 本時では



ペープサートの活動を通して会話を想像して膨らませる

各自の構成メモを書いて増やしていく

02 本時では



一斉交流の時間をとり、どのような会話をしたかを問い「あいさつ」「案内」などお話の膨らませ方を項目立てることで見直したり新たなメモの際の視点に。

02 本時では（成果）



○書くための手立てペープサートの活用

- ①テンポのよい会話
- ②お話を広げ「情報収集」が達成
- ③一往復半のやりとりを生み出す

○分類分けして汎化するよさ

○好きを振り返る場

振り返りカードを用いて好きを振り返ることで、目標に立ち返る

02 本時では（課題）



△ペープサートの広がりによって、子どもの思いと教師の思いのズレ

ペープサートを使うことで「もっと主人公の会話を書き続けたい！」という子ども。

「会話文（返事）のパターンを増やしたい」という問いの生まれにくさ。

02 本時では（課題）



△児童の実態に応じた書く手立て

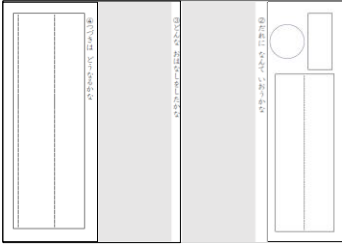
教師の例→友達との会話→自分の作品

低学年の子どもにとって「自分のお話を考える」ために有効な手立てであったか？

△知・技かぎ（「」）の指導

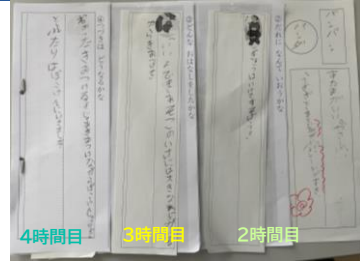
どの子ども、自分の文章や友達の文章に立ち返りたくなる関わり

02 単元では



2次 (4/6 時間目)
自分の好きな
おはなしの結末を
考える

02 単元では



02 部の実践として

田中学園 2年 北実践 「お話のさくしゃになろう」



生成AI



動作化+



モニター (padlet)

02 部の実践として



構成メモ
発達段階に応じた
レベルアップ



03.

部としての成果と課題


 書くこと（文学）部会


 03 部としての成果と課題

○感動を広げる手立て

文学における感動を生んだり、広げたりするためには、他者との会話（ペープサート、なりきり等）やICTの活用が有効。感動が広がることで「伝えるためにどうしていくか」という「問い」が連続することに。

○汎化する手立て

悪例を用いることだけでなく、広げた感動を分類したり項立てたりすることで、子どもの表現に活用されていく。


 03 部としての成果と課題

○構成メモから文章へ

書くことにおける困難の一つ。構成メモの効果的な活用で子どもの書くハードルを下げることに。

○自分や他者の文章の「よさ」

書くだけでなく、効果的な振り返り（好きなを数値化するなどして認知できるように）によって、自分の感動をより伝えたいことにつながる。


 03 部としての成果と課題

△子どもの書きたいことと教師のねらいのズレ

子どもの想像が広がっていったときに、子どもの書きたい意欲や内容と指導事項がずれないように。一斉指導の場を活用して目標や自分の課題に立ち戻ることの必要性。

03 これからの部として

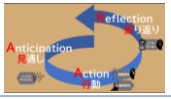
これから部として目指したい子どもの姿は

「自分の『感動』や『好き』が伝わる（相手の心が動く）」

「友達の『感動』や『好き』が分かる（心動かされる）」

という学びに、**よろこびを感じられる子どもの姿**

03 これからの部として

感動の醸成	自己認知と推敲	捉え直し
完成させることが 目的とならない 文学との出会いや 浸る場の確保 感動の醸成 (中学年高学年でも)	「浸る」 「書く」 「自己認知/推敲」 が行き来する学び方	感動を広げる 構成を捉え直すための 振り返り (メタ認知と自己調整) 
【Anticipation】	【Action】	【Reflection】

ご清聴ありがとうございました

